新町長就任

◀新町長拍手に迎えられて初登庁

津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話　（代表115番）
編集　編集委員会
印刷所　緒方印刷所
八代市通町
電話（八代）② 3117番

ご挨拶

積み重ねてよりよい町へ

町長　六車孝吉

紺碧の空にそそり立つ壮大な夏の雲。

昭和十八年の夏、行軍に疲れ果てて、木陰に小休止した。目の前にひろがる果しない草原の彼方に見た夏の雲。

私はその時、無性に故郷を思い年老いた母を思い浮かべた。

遠いその夏雲の下に、なつかしい故郷の津奈木があるように思えた。

強烈な日ざしのもとで、深く脳裏に焼きつけられた望郷の思いは、今も尚、鮮かによみがえってくる。

三十年後のこの夏、私が津奈木の町長になろうなどとは、全く夢想だにしなかった。

今、改めて周囲を眺め、足元を見つめながら、一体これからどうなるのか、先ず何をなすべきかと、次から次にいろんなことが一度におしよせて、責め立てられるような感じがする。

しかし、ここではっきり言えることは、これまで先輩が営々築いてこられた実績を土台に、さらに、公約申し上げたことがらを積み重ねて、よりよい津奈木にするため微力をつくしたいと思うことです。

町民各位の絶大なご支援とごべんだつを切にお願い申し上げまして、取り敢えず就任のご挨拶にかえます。

山崎直次郎さんにみどりのリボン賞

みどりのリボン賞は、社会のためにつくした人におくる熊日新聞社の賞である。

津奈木町でこの賞をうけた最初の人は、赤崎の吉野仙太郎さんで山崎さんは二番目。

申すまでもなく山崎さんは、津奈木町を花で埋めようとする花一ぱい運動や、押し進めていられている功を認めての賞。

ほこらめぐり (2)

小津奈木地の神慧浄院

堀　二雄

小津奈木の中央部で鉄道と国道と平行する中間の小丘に、年経た古木の森の中に由緒ありげな一宇の祠がある。

畑草取りの老人に何様をお祀りしてありますか聞くと、地の神さんですたいという。

拝殿の上り口の頭上に庵木爪の紋が張ってある。中に入ると、正面は壁はなく格子戸がたてかけてある。神殿を造りたす予定であったのであろう。右側の壁に簡単な棚に古い木像が祀られてある。相当年代を経たらしく顔もはっきりしない、小児大でかなり大きい。光背を負い無冠僧形で仏像か地蔵か私にはわからない。

ここの古事来歴を地元の郷土史家岡本秋徳氏に聞いて思い巡らすと、次のようなことになりそうだ。

庵木爪の定紋は源頼朝の寄下工藤氏（祐経）一族の紋であるという。祐経を父の仇として討った曽我兄弟の紋も同じである。曽我兄弟の父は、矢張り工藤一門である。

同根の工藤祐時は、鎌倉幕府の命により日向飫肥の守護職となり、伊東氏の祖となった。後伊藤となる。伊東氏は後年戦乱のため戦いに破れ、相良家を頼って落ちて来て、薩摩の島津家と相良家の接触地点、津奈木に到り、相良家最前線の守りとしてここにとどまり、生涯の地としたという。

その末流か、津奈木で伊藤氏を名乗る人々の中には、庵木爪の定紋を使っている人が点在している。即ちこの地の神は伊藤氏を祀ったもので、伊藤神社ともいうべきものであろう。

境内にある慧浄院の碑、広い境内の片隅にある墓石、前記木像は皆慧浄院の附随物だと思われる。昔慧浄院は現在地より一段下の国道附近にあったと古老がいった。

多分伊藤氏の菩提所であったろう。木像は移転の際、便宜上本堂におかれたもので、御神体は古式鏡で逸散を恐れ岡本氏が保管されている。思えば奇しき歴史の流れである。八百年も前から曽我兄弟の血が津奈木に流れ続くとは。

腰を埋める夏草の中にひっそりと肩をよせ合うように、三基の墓石が風雨にたえながら悲しみを訴えている。祭日は十一月十三日とか。

花水も絶えし古塚や蝉しぐれ

青年団大いに奮う

総合祭で郡中断然第一位

さる七月八日、田浦中学校で、郡下青年団の総合祭が行なわれた。

そして、団員数の最も少ない津奈木町が、最も多く点数をかせいで、総合優勝をとげ、数年ぶりに栄光をもち帰ることができた。これ、全く本町青年団員の団結と平素のたゆまない活動のたまものと感謝にたえない。

次の成績をごらんになれば、その活躍のすばらしさにおどろかれるだろう。

○総合得点
津奈木町　一六二点
田浦町　七二点
芦北町　六八点
（他の二町を合わせても本町には及ばない）

○内訳
陸上総合優勝（男女とも）
文化総合一位
団体総合一位

○団体種目（リーグ戦）
1、卓球　優勝
2、相撲　優勝
3、バレー　男女とも二位

○文化部
1、食衣住部　一位
2、コスチューム部　一位
3、美術工芸部　一位
4、生花部　一位
5、書道部　二位

○陸上
（男子）
1、五千米　一位・二位
2、千五百　一位
3、砲丸投　一位
4、スェーデンリレー二位
（女子）
1、二百米　一位
2、三種競技　一位
3、走巾　一位
4、走高　一位
5、四百リレー　一位
（なお、一位は郡代表として県体に出場）

選手並びに応援のみなさんのご労苦に深く感謝する（団長）

心をうるおす故郷

林田富人

―紹介―

昭和七年林田義人氏の四男として生れ、旧制熊高を出、昭和三十年長崎大経済学部卒、明治生命に入り、現在明治生命鳥取支社長。

雪夜の山道を素足にアシナカはいて通い、グラマンの空襲におびえながら、病床で遅れた進学を果すべく津奈木の高等科に学び、都田先生のご指導、松本央先輩の励ましを受け、熊本中学（現熊高）に入学したのが終戦の年の昭和二十年でした。

月日がたち、故郷を離れるにつれ想い出すのが、

「いま、将軍さん金比羅さんの祭はどうなっているかな。セルフネはどうだろう。水俣病の記事に心を痛めつつ、巾着網は？ボラ釣りは？ また停電するとすぐ電柱に登り村中に燈りをとり戻してくれていた床屋のおじさんは元気かな等々。」

郷愁の念というものでしょうか。

一昨年から転勤で山陰の鳥取市に来ていますが、県西部に赤崎と言う港町があり、いたる所で熊本みかん・熊本トマト・熊本プリンスメロン等のダンボール箱をみかけ、身は遠くにあっても心の中には常に郷土の面影が濃くやきついています。

立場上、鳥取の政財界のトップクラスの方々とよくお会いしますが、やはり熊本人と異なり何か一つ違った感じは否めません。

さすが遠い所だけに熊本出身者は少く、前県警本部長だった方が済々黌出身で熊本の方だったため、時折訪ねたり、一緒にゴルフをしたりで、二人で熊本のことを偲び合ったものでした。

何時、如何なる場所でも熊本人としての矜持を保ち、郷土の名を辱めない人間でありたいと念じ心掛けています。

人生に潤いをもたらし、心に豊かさを持たせてくれるもの、それは故郷でいかと思います。

国体選手（山岳部）

沢井則夫君（倉谷）

沢井則夫君（沢井武市氏令息）手をもって送ろう。

沢井則夫君は、山登りが唯一の趣味で、暇さえあれば山登り、日本国中の高い山はたいがい頂上をきわめている。

今年の十月行なわれる国体に、県を代表する三人の一人として、千葉県の鋸山にいどむことになっている。本町より出る数少ない国体選手を拍手をもって送ろう。

眼鏡橋聞き書き

岡松壮

眼鏡橋のことが忘れられないと、斉藤精志郎さん（公民館報一七二号に「津奈木の殻」を書いて下さった人）から、次の手紙をいただいた。聞き書きではないが、聞書として発表させてもらいます。

（前文略）

さて、先生の「眼鏡橋」の記事そして六車元村長の本にあった「手がチンバ」は記憶に残っておりまして、毎夏、六車村長の郷土誌を読みふけった時代のことが思い出されました。

ところで、先日FMラジオを聞いていましたら、「肥後の石工」の朗読があり、その中の主人公、岩永三五郎が鹿児島の西田橋をかけたとか、そして後に緑川の橋とか、有名な通潤橋もかけたという放送を聞いてから、すぐお便りをしようと思ったのでしたが、先日やっと本が手に入りましたのでお送りする次第です。

鶴野満真伯父のいった例の要め石がここでも大題となっています。

それと、私の記憶では、浜の為朝神社のそばに小さな眼鏡橋がありました。

美しい壮大な津奈木眼鏡橋は勿論ですが、あの小さな橋が大好きで、六車さんの蔵書を読みあさったころ、よく散歩に行っていとおしんでいたものです。

ここで一つ津奈木のみなさんに提案があります。

千代塚の外に、眼鏡橋とか、深水津南先生や会所の跡とか、町の手で指定史蹟といったもので、保存することを考えていただきたいものです。

また、頼山陽の詩碑をたずねるとか。

また、残り少なくなった古文書などを保存するとか。

なお、「肥後の石工」はぜひご一読願います。私も津奈木の美しい「眼鏡橋」に魅せられた一人です。お読みになったら津南中学にでもご寄贈下さい。「眼鏡橋」のもつ壮麗な姿に印象づけられる若い人たちがいるかもしれませんから。

×××××

ご提案まことに有難うございます。ご意見のとおり、本年三月、本町でも文化財保護条例ができて、その実動に入ろうとしています。ご支援をお願いいたします。

肥後狂句

堀　双岳選

夏座敷ゆうれい話のはずみおる　健男
夏座敷冷房しすぎて医者通い
あなたなら誰も頼まんやぶれ口
あなたならもう信用しまっせん　わらび
夏座敷蚊取線香の打舞うて
夏座敷裸が居って後退り
あなたなら選子の来ては多かろう
あなたならまかせてもよか会計簿　貞夫
夏座敷パンコに裸で姿が酌
夏座敷みすが奥まで煽ぎおる
あなたなら彼女は一も二もなかろ
あなたなら姑にゃ合せきるもんね　拙者
夏座敷裸で素麺する客
あなたならきっとお気に召します
あなたなら頑固親父も無条件　健男
あなたなら肝入り役も張りのある
あなたなら娘の恋をどう捌く
夏座敷ショートパンツの幼な妻
夏座敷団扇が招く浴衣客　呑牛
あなたなら社長の息子にどんびしゃり
あなたなら選り取り見取り玉の輿
夏座敷みすに風鈴青たたみ
夏座敷西瓜で腑ぬらしおる　双岳

次題
おとろしか・御無理
五句以内、九月末まで公民館へ。

わが家の夏休みプラン

さる日、お母さんがたのお集りに、わが子の夏休みの過ごさせかたを聞いたら、つぎのようなお答えがでた。

きまりについて

○学校の日程表にしたがう。
○朝すずしい中に勉強、十時までは遊びに出さない。
○夜は外出させない。中学生や高校生を出したら、あやまちのもとになるかもしれない。
○夏休み日記をつけさせる。後年の記録としてのこしたい。
○一日の予定、一週間の予定を立てさせ、きめたことはあくまでやりとげさせる。

あそび

○休み中はのびのびと遊ばせ、体力づくりにあてたい。
○家での遊びは自由にさせたい。
○親子会で親子ともども、一日、海水浴にゆく。
○花火は大人とごいしょに遊ぶ。

しつけについて

○小ごとだけいわずに、ほめてもやる。
○ぬすむことを一べん許せば、その子は将来ぬすびとになる。小さい悪事といえども、見のがしてはならない。

註　編集者より

つぎのことも、かんがえていただけませんか。

三つのしつけ

○朝のあいさつ。初めは親からさそい水をしてやる。
○「ハイ」とはっきり返事するように。
○はきものを、そろえる。席を立ったら、必ずイスを入れる習慣。

親のべんきょう

○夫婦の不和は、子供の非行とつながる。
○食事をしながら、その日のことを話合う。
○ラジオ体操には親も参加（註、子供だけのラジオ体操が、どんなものであるか見てください。）
○テレビを家族で話合って、見る時間をきめる。

（註、テレビを見ないことにしたら、家族間の話合う時間がふえ、子供は勉強・読書についやす時間が多くなったということです。）

○夏休みは、またとない家族会議のひらけるよい時期です。役割分担をきめて、親もこのときばかりは、司会者の命にしたがわねばならぬ。
○あぶないと見たら、よその子でも注意してやる。

ぐうたら読後感

「ぐうたら」が、あなたの読書生活の再出発のきっかけにでもなったら、望外の幸いであります。

あるときの公民館運営審議会の席上で、公民館運動の一つとして町民の一人一人が読書するように仕向けたらとの話が出て、同感の話でもちきりだったとか。

そこで、公民館報をとおして、読書をすすめる一文をのせたらということ

その役を私が引きうけた。

自分が読まないでいて、人さまにすすめる横着はゆるされないので、このごろのベストセラー中の「ぐうたら交友録」「ぐうたら人間学」（いずれも公民館図書室にあり）を読んでみた。

なるほど、漫画を見るように気楽に読め、適当に一人でクスクス笑いながら読めた。

「ぐうたら」を辞書をひくと「のらくら」「ぐずぐずして気力のないこと」とある。

正面きって話すのでなく、議論するのでなく、くだけて一・二段格を下ろした態度であろう。

まあ、庭に涼台を出して、二人ともはだかで、酒を汲み交すときの話のような、四角ばらない本とでもいえようか。手きびしい話も出よう。愉快な話もあろう。とてつもない話もあろう。そんな本。

だから、肩がこらず、おもしろい。

愛情学は男よりむしろ女に読んでもらいたい。女の悪口をいって、身も蓋もない。かと思うと、男から女に、してもらいたいことなどもある。

交友録は、著者遠藤周作の交友十四人について、その人の一側面を、つつみかくさず、書いてある。

おもしろくとらえている。

人間学は著者の偶感とでもいうものをつずったもの。

どの本だったかおぼえていないが、つぎのことがらは、忘れられない。

女の膝をさりげなくなでるまでには三年を要し、同じくおしりをなでるまでには八年かかる。

京都では「お上り下さい」といわれても、ご飯召上っていて下さい。」といわれても、「おかけ下さい。」といわれても、そのまま信じて、ノコノコ、そのとおりにすると、非常識といわれる。

以下略

×××

私は「ためになるから読まれては？」とはいいません。「おもしろいから」とおすすめするのです。得るところがあったら、もっけものです。

学校便り

図書充実について

平国小学校

読書は、ご承知のように、人間形成の上で最も大切な栄養源と言われ、また、人の品格は、その読む本によって判することができるとも言われているほどです。それに読書の習慣を形成する適時は、小学校の時だと言われています。

この趣旨から、本校が昨年十一月より親子三十分読書に取り組みましたが、図書館の蔵書は皆無と言ってよい状態でした。

しかし、ロータリークラブから約八十冊の寄贈と玉緒苗販売利益六千円や松本医院より多額のご寄付をいただき、約二〇〇冊程度の新本がそろい、それに教育委員会の伊藤社会教育主事より県の巡回図書を月に八十冊位貸与していただき、何とか読書運動を実施することができました。

本年はPTAの事業として五月中旬、ぴん回収を実施し約四千本のぴんをさげきず、その利益を図書購入にあてることにしています。

また、最近岩崎　満さんより何か生徒の為にと多額のご芳志をいただき、これも図書購入費に当てています。

本年は佐藤先生が図書館経営のベテランで製本講習を実施し、全職員古本の修理ができるようになりました。

現在では児童一冊宛の少ない図書ですが読書運動をはじめてから学校生活に落付きが見られるようになりました。

皆様のご善労やご協力に感謝申しあげます。

セントラル新工場

干拓地に移ったセントラル新工場を見せてもらった。

思いきり広い休けい室がある。一ぱい置かれた机の上に、きちんと弁当がならべられてある。

なんといっても、見せてもらいたいのは作業現場。

室内に入ると、冷房でヒンヤリとする。これでは、仕事のはかもゆこう。

向うのはしまで六十メートルあるという広い部屋。

その部屋中にひろがる工員さんのそろいの作業服のうす青色、目からあふれる。

小学校あとで作業していたときの工員さんは、悪くいうと、心のひきしまりが足らなかった。仕事も遊び半分みたいな人も見うけられた。が、ここでは、みんなの口が一文字にしまっとる。目がいきいきしている。ハンサムが通れば、一ぱいに眼が動こうが、われわれが横を通っても見むきもしない。

そのため、製品も月一万台はゆうにこしているとか。設備も完全にととのい、仕事にも更になれての働きぶりでは、月一万五千台にするのは、軽いだろう。

日雇いでは、働きのよしあしにかかわらず賃金は一定しているが、ここでは生産が上がれば、給料が上がるというから、たのしみである。

注意して見ると、わずかながらベルトが動いている。それにのって流れてくる半製品に、自分の持ちまえの品を加えて、ベルトにのせて次におくる。何十人かの手を へて、最終のベルトには完成された品が到着する。

そんなベルトが四本ある。

今、鉄骨の家が建ちつつある。倉庫とか。作業の一部に積んである品がここに移されたら、この部屋も更にきちんとなって、仕事はますますたのしくなろう。

主張

郷土に生きる

青年団長　林田和幸

今私達が住んでいる所、それは熊本県であり津奈木町であります。津奈木に生まれ育ち、今、私達は津奈木に住んでいます。私達の大部分はやがてここで年をとり、そしてそのうちに郷土の土に帰っていきます。

現在日本の社会を動かしている大人達が、その座から去った後、その座に登場してくるのは、私達青年です。それ故にわれら青年は熊本の事を知り、津奈木町のすがたを知らねばなりません。

だが青年が、現に〝自分が生きている〟郷土の事をよく知り、又、真剣に郷土の未来を考えているか……一概にはイエスとは言えないようです。だからこそ、私達は青年団という集いの中で、青年一人一人の人格形成と地域社会への貢献に活動しています。この大きい目的の為に青年団の運動目標が設置されます。

開拓と協和の二つをスローガンにして……。

この運動課題の解決に必要な知識や能力を養い、的確な判断力のある、しかも行動力を持った人間としての創造性を高めていくのが学習活動であり、我々の生活を疎外している社会条件を一つ一つときほぐし、改善していく運動とが結びついていかなければなりません。

私達は温かい仲間の力で人間性を回復し、豊かな創造性を養い、さらに社会のしくみを認識するため、平和と民主主義を守るため、平和運動などさまざまな問題に取り組んでいます。

私達津奈木町連合青年団は、芦北郡を代表する青年団と高く評価されています。

最後に団員の御両親の御理解と御協力に深く感謝しお礼申し上げます。今後とも町民皆様の暖かい御支援を切にお願い致します。

東南アジア旅行　続き

特急「ビマ号」は行く

伊藤信夫

しかし、「われわれは、大東亜建設のために学びます」とはっきりいったのにはびっくりした。

彼の友だちの中には、日本人に殺されたものもあるらしく『日本人は戦争中悪いことをしたが、今はわれわれと友だちで、アメリカより強い』とただただしく話す。

突然、彼が日本の軍歌を歌い始めた「うみゆかばみずくかばね、山ゆかば草むすかばね」まではできたが先が出てこない。これもまた、何度も何度もくりかえすが、あとが出てこない。僕もこれまでしか知らないので、知っているところだけを彼と合唱した。

僕は、インドネシア民謡で、日本名では「かわいいあの娘」を歌い出すと、同じ車中の人たちが、僕等のまわりに集まってきて、一斉に歌い出した。何だか国際親善に一役買ったような暖かな気分。

車内放送で夕食を伝えた。例の役人に促されて食堂車へ行ったが中々豪華なものである。

献立は、鶏料理・スープ・ライス……。

食べてみると、少々辛い。ライスはパラパラで箸では食えない。隣りの上品な紳士が「スキヤキとどちらがおいしいですか。」と。「こちらがずっとおいしいです。」と答えると、ニッコリ笑って「サテーはもっとおいしいですよ。」とつけ加えた。

食事がすむと、食堂車はすばやく映画館に早がわり。

映画がすんで、自分のボックスにゆくと、ベッドの用意ができていた。日本の寝台車とあまり変らない。

寝る前に「ジョクジャカルタに降りるから、よろしく。」と車掌にたのみにいくと、

「ホテルはどこか。どこを見るのか。夜の一人歩きは危い。駅長を紹介してやるから相談せよ。」などいろいろ心配してくれた。

安心してベッドに就いたが中々眠れない。

二時までまんじりともせずにいると、はたして例の車掌がきて、近いことを知らせてくれた。

列車から降りようとすると、突然ホームの方から少年三人とびのってきて、僕の荷物を持とうとする。あっけにとられていると、車掌が荷物をもって駅長室につれていってくれた。

名言金言

「名言は人生に対して不思議な力をもつ。ある時は人を教え導き、ある時は人を励まし慰める。…句は短くて意義は長い。短いが故に覚え易く、長いが故にその心用は無窮自在である。要するに、古典の名言は不思議な力を持つ。」

これは「中国古典名言事典」序文の一節である。

中国古典に限らず、折りにふれ人に教えられたこれら名言を紹介してゆきたいと思う。これらの句がいつかお役に立つことを念願しながら。

生活訓

1、嬉しい朝だ！自分のための今日が始まる。
2、今日一日を大切に！！感謝の気持ちで最善を尽そう。
3、暑さ寒さは自然の法則、感謝で受らせば体にこたえぬ。
4、常に一歩を譲る心の余裕さが、事故を未然に防ぐものである。
5、いつも明るい心で暮らそう、苦しい時でも楽しい時も。
6、人間は逆境にきたえられて、自力と確信が生まれる。
7、感謝の心は幸福を生み、不足の心は不幸を生む。
8、外見を飾るまえに、まず向心を美しくしよう。
9、地位が上がるに従い謙虚である人ほど、周囲の尊敬は深まる。

（農中　三澄）

※こどもへのおみやげに　おほんを。

※箱より中味、ムダな包装ことわりましょう。